

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 751 号 令和5年12月

## 目次

○令和5年度全国獣医師会会長会議・2023動物感謝デー等出席・参加報告（会長理事）	1
○第1回小動物講習会開催案内	1
○令和5年度第3回理事会開催報告(常務理事)	3
○墓碑掃苔供養で時重初熊先生を偲ぶ（徳山支部 三谷藍先生）	4
○リレー随筆（山口支部 田代久宗先生）	5
○決済方法あれこれ（熊毛支部 菅原淳也先生）	6
○九実研及び実技協九州支部の合同山口大会に出席して（山口支部 中間實徳先生）	7
○獣医療に関する広告の制限及びその適正化のための監視指導に関する指針（獣医療広告ガイドライン）の全部改正について（山口県畜産振興課）	9
○事務局だより	10

## 令和5年度全国獣医師会会長会議・2023動物感謝デー等 — 出席・参加報告 —

会長理事 田中尚秋

去る令和5年11月22日(水)、上野精養軒（東京都台東区上野恩賜公園）において令和5年度全国獣医師会会長会議が、翌23日（木・祝）には同公園の不忍池周辺において動物愛護週間中央行事と合同開催となる2023（にーまるにーさん）動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”が開催され、出席・参加しましたので、その状況を報告いたします。詳細については、日本獣医師会雑誌に掲載されると思いますので、ここでは概略の報告とさせていただきます。

### — 令和5年度全国獣医師会会長会議 —

駒田逸哉事務局長の司会進行により会議が進めら

れ、最初に藏内勇夫会長から挨拶があった。

- ・農林水産省消費・安全局畜産安全管理課、白尾紘司課長補佐出席に対する謝意
- ・全国獣医師会会長等に対する、多忙の中での出席、平素の支援・協力等に対する謝辞
- ・ワンヘルスへの取組み

政府には6月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針（いわゆる骨太の方針）にもワンヘルスアプローチの推進を盛り込んでいただいた。また、本会においても、昨年11月に福岡で開催した第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会において「アジア

## 令和5年度第1回小動物講習会のご案内

下記のとおり開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- 日 時：令和6年1月14日(日) 10時～16時
- 会 場：防長苑2階 孔雀の間（山口市熊野町）
- 演 題：2023年版 勝手に救急のいろは～救急診療現場のリアルをお届け～
- 講 師：TRVA動物医療センター（東京都） 塗木貴臣先生
- 参加申込：令和6年1月10日(水)までに、本会事務局に申し込んでください。
- 参加費：本会会員は無料ですが、それ以外の方は次のとおり参加費をいただきます。  
学生：千円 動物病院スタッフ：2千円 その他（一般）：3千円

ワンヘルス福岡宣言2022」を採択・公表し、ワンヘルスの実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信することを決意した。

- ・第45回FAVA代表者会議において、日本代表からFAVAとCMAAO（アジア及びオセアニア医師会連合）のMOU締結について提案され、MOUの内容と締結に向けた動きは、今後FAVA執行部に一任することで了承された（CMAAOの事務局は、現在日本医師会内にあり、医師会と連携して取り組んでいきたい）。
- ・このたび世界獣医師会（WVA）の次期会長選挙に立候補した。引き続き応援をよろしく願いたい。
- ・販売用犬・猫へのマイクロチップ装着・登録の件は、問題解決に向けて努力しているが進展していない。二重登録問題等を抱えたままである。
- ・明日は上野の恩賜公園で動物感謝デーを開催する。また12/1～3日は神戸で年次大会を開催する。多数のご参加をお願いしたい。
- ・有意義な会合となるよう忌憚のないご意見を願いたい、等

続いて、議長として（公社）香川県獣医師会の篠原公七会長、副議長として（公社）神戸市獣医師会の中島克元会長が任命され、両議長から簡潔に就任の挨拶があった後、議事が進められた。

#### 【説明報告事項】

- 1 「愛玩動物における遠隔診療の適切な実施に関する指針」策定の経緯等に関する件  
小動物診療の遠隔診療ガイドライン発出の経緯等について白尾課長補佐から説明があった。
- 2 獣医療広告制限の見直しに関する件  
令和5年10月13日付けで、「獣医療法施行規則の一部を改正する省令」が公布され、令和6年4月1日から施行されることになったこと、内容を境政人専務理事が説明された。  
今後、獣医療広告を行う場合は、「**獣医療広告ガイドライン**」に沿って行う必要があるため、開業の先生方はよくご覧いただきたいと思っております。  
＜以下の項目はすべて境専務理事説明＞
- 3 令和5年度動物愛護週間中央行事及び2023動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”に関する件  
開催概要について説明があった。
- 4 販売用犬猫に対するマイクロチップの装着・登

録に関する件

環境省自然環境局総務課動物愛護管理課から「動物の愛護及び管理に関する法律施行令の一部を改正する政令案に対する意見の募集（パブリックコメント）」が令和5年10月30日（月）から同年11月28日（火）までの間行われている（MC登録・申請に係る料金改正（引き上げ）に向けた政令案）ので、積極的に意見を申し述べてほしいとの要請があった。

「マイクロチップ普及推進検討委員会」委員長である鳥海弘（公社）神奈川県獣医師会会長（現日本獣医師会副会長）から、事務改善についてはかなり困難な見込みであるとの見解が示された。

これらに対し、藏内会長あて今後の見通し等について意見が求められ、日獣としては、まずは登録制度に係る赤字解消から取り組み、国民が利用しやすいシステム作りに向けて今後も一層努力していく旨の決意が示された。

#### 5 政策提言活動等に関する件

ワンヘルス施策の推進に関する要請（①感染症に対する危機管理施策の整備・充実及びワンヘルスの実践体制の構築、②MC装着・登録事業の適正な運用、③高度かつ専門的な獣医療提供体制の整備、④産業動物診療獣医師及び公務員獣医師の確保と処遇改善）を自民党ワンヘルス推進議員連盟（林芳正会長）あて行ったことの説明があった。

#### 6 第41回日本獣医師会獣医学術学会年次大会に関する件

開催概要（12/1から3日間、神戸国際会議場にて開催。12/2神戸ポートピアホテルにて歓迎交流会開催）の説明の後、現在、事前登録者数が非常に少ないので、参加登録を促してほしい旨の要請があった（全国獣医師会あて11月17日付けでお願い文書を発出）。

#### 7 日本獣医師会ワンヘルスセミナーの開催に関する件

令和6年2月14日（水）明治記念館においてセミナー（関連会議として日本獣医師連盟総会）を開催予定であることの説明があった。

#### 8 世界獣医師会（WVA）役員選挙に関する件

次期会長選挙に藏内会長が立候補されたことに伴い決意表明がなされ、応援要請があった。

#### 9 アジア獣医師会連合（FAVA）とアジア大洋州医師会連合（CMAAO）におけるMOUの締結に関する件

＜藏内会長の挨拶にあったとおり＞

## 10 その他

議長からその他の件について諮られたが、特に何もなく、当面の主要会議等の開催計画等について説明があった後、会議は閉会となった。

引き続き会場設営後、全国獣医師会・日本獣医師会事業推進懇談会が催された。

### — 令和5年度動物愛護週間中央行事・2023動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”—

(11/23(木・祝) 10:00～16:00 上野恩賜公園(不忍池周辺)で開催

野外ステージにおいて開会式があり、主催者代表挨拶(東京都保健医療局動物健康安全部藤井麻里子部長及び藏内会長)、来賓祝辞、来賓紹介があった後、セーブペットプロジェクト寄付金贈呈式(日本全薬/ベーリンガーから200万円贈呈)があった後、砂原和文副会長が開会宣言を行ってイベントはスタートした。祝日ということもあり、動物(特に犬)を連れた参加者など、多くの来客者で賑わった。



動物感謝デー 藏内会長挨拶



セーブペットプロジェクト寄附金贈呈式

## 令和5年度第3回理事会開催報告

常務理事 酒井 理

令和5年11月2日(木)13時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和5年度第3回理事会が開催されました。

理事13名中12名、監事3名中2名に出席いただき、田中尚秋会長からの平素からの会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の4件の議案について審議していただきました。

**第1号議案 令和5年度上半期の事業実施状況について(報告事項)**

**第2号議案 山口県獣医師会被災動物救護実施要領の制定について(承認事項)**

**第3号議案 支部設置規程の一部改正について(承認事項)**

**第4号議案 支部長の交代について(承認事項)**

各議案の説明及び審議状況は、次のとおりです。

第1号議案、第2号議案及び第3号議案についての事務局の説明は、本年10月に開催された第1回支

部長会議の議題と同じ(会報11月号に掲載済み)ですので省略します。

**第1号議案**の審議では、県獣医師会館検討会議における検討状況について質問があり、事務局から「1月に開催予定の総務委員会で報告した後に、次回の理事会で詳しく説明する」と回答しました。

**第2号議案**の審議では、新たな「山口県獣医師会被災動物救護実施要領」が承認され、即日施行されました。

本会の実施要領は、県が定めた要綱・要領等とともに、本会ホームページに掲載します。

**第3号議案**の審議では、支部設置規程の一部改正が承認され、令和6年4月から、現在の「宇部厚狹支部」に「美祿支部」が統合され、さらに名称が「宇部支部」に変更されることになりました。

**第4号議案**の審議では、県庁支部支部長が、西藤裕一郎先生から河村章先生に交代することが承認されました。

## 墓碑掃苔供養で時重初熊先生を偲ぶ

徳山支部 編集委員 三 谷 藍

(三谷獣医科病院)

時重初熊先生は士族音二郎氏の長男で、安政6年戸田村昇仙峰の麓で生まれ、日本獣医学博士の第1号である。(博士としては3人目)

獣医学研究のためドイツに留学、帰国後馬の病原体を発見「仮性皮疽病の研究」を発表、牛馬の病原体の発見・血清の創設、ヒムシ病・結核病・ダニ熱等々を研究し獣医学の進歩発展に寄与、名声は海外でも評価される。その後各種予防液血清・診断薬の製造・原因不明の伝染病の研究・指導し偉大なる効果を上げる。畜産界の恩人であり日本の獣医学会の発展に貢献された。墓地は昭和54年5月に有志により改修され現在は県獣医師会が中心となり偉大な博士を偲び2年に一度お墓の掃除・法要が行われている。(戸田公民館社会福祉協議会2017年2月1日発行“戸田だよりVol. 34”より抜粋)

没後110年の節目となる10月29日、時重先生の墓碑掃苔供養を行いました。当日は天気にも恵まれ墓地までの心臓破りの急斜面も、ひんやりした空気を吸い込みながら進むのは大変心地よく、2年ぶりに訪れる我々を待っているかのように静かに佇む時重先生の墓碑周りは少し整備された跡があり花も添えられておりました。きっと地元の方も大事にされているのだと思います。我々も年長者を筆頭に各自持ち寄った掃除道具を手に清掃作業に入るので

すが誰が指示出すわけでもなく、一帯の雑草や落ち葉を取り除く人、墓石の苔を落とし水で磨く人、伸びて邪魔な樹木を鋸で切り落とす人…と見事なチームワークで進んでいく墓掃除の光景は徳山支部の自慢です(と勝手に思っています)。

最後に一人一人が墓前に手を合わせて、100年以上も昔に今日の予防獣医学の礎を築かれた時重先生の業績に感謝し、また現代の獣医学を実践する我々の姿を見て何を思われているのだろうかと思いを巡らせながら今年の墓碑供養を終えました。

余談ですが、この記事を書くにあたり時重先生についての資料を読んで面白かったのが、土屋耕太郎著の「動物用ワクチンの変遷と感染症の制圧・排除・根絶：日本の牛疫ワクチンと狂犬病ワクチンを中心に」(652頁、日本獣医史学雑誌49, 10-21 2012年)です。前半は当時の日本の農業の要であった牛を牛疫から守るため、単身朝鮮半島にわたり牛疫の研究に心血を注いで血清を作成し、のちの後輩の方達の研究のリレーで世界的にも優秀な牛疫ワクチンを作り出した過程や、後半に記されている狂犬病ワクチンなど世界的にも優れたワクチンが実は日本の諸先生方の熱意もさることながら、文字通り身を削った研究の賜物であることが伝わってきて胸が熱くなります。この機会にぜひお目通しいただければ幸いです。



ありし日の時重初熊先生 (Wikipediaより)



自前のチェーンソーで大活躍の橋本先生



ツナギ姿で初参加の防府支部・豊川先生



供養後の記念撮影

## リレー随筆

### ポケモンGO！！

山口支部 田代久宗  
(中部家畜保健衛生所)

最近、朝夕がめっきり冷え込んできて、急に冬の訪れを感じる今日この頃。皆さん、風邪などはひかれていませんか。

昼間は日差しも暖かく、運動にはちょうど良い季節となったので、休日は出来る限り外で体を動かそうと思うのですが、出不精な私にとって、散歩というのも非常に億劫に感じてしまいます。そこで登場するのが、スマホの位置情報を利用したゲームアプリです。昨今はその種類も増えて、代表的なものではドラゴンクエスト、新作にはモンスターハンターなど有名なゲームタイトルを位置ゲー化したアプリもあります。その中でも私が愛用しているのは、かの有名なゲーム、ポケットモンスターを題材にした『ポケモンGO』です。

ポケモンGOは、アプリを起動して歩いていると、スマホ画面上でポケモンが出現して、それを捕獲したり、捕まえたポケモンを交換したり、育成してバトルさせたり、プレイヤー同士で対戦(PvP)したりするゲームです。(当然のように語っていますがポケモンとは何なのかの詳細は割愛します。長くなるので…)ポケモンと言えば、私と同じ所属に大変マニアックな後輩がいますが、一応私もシリーズ第一作から遊んでいるそこそこのファンです。なので、アプリがリリースされてすぐにダウンロードしたのですが、当初はユーザー数も少なく、ポケモンを捕まえるだけのゲームだったので、あまり面白味を感じていませんでした。しかし、数年前に友人に誘われて復帰して遊んでみると、上述のように機能やできることが増えていて、それから本腰を入れてやるようになりました。このアプリでは、時折、ゲーム内イベントが開催され、特定のポケモンが大量に出現するようになるので、高い能力値の個体やPvPに使えるような個体を狙って捕獲したり、レアな個体である「色違い」を探したり、と楽しい要素が増えるのが醍醐味です。イベント時に私が狩場と称している維新百年記念公園に出かけると、街中かと思うくらい大勢の人が、スマホを見ては徘徊を繰り返すという奇妙な風景に出会えます。サッカーシーズンの週末に

レノファのホームゲームが重なった日には、出遅れると駐車場には入れず、人もごった返す、ちょっと異様な状態になります。ともあれ、そんな中、ふと周りを見てみると、実際ポケモンのゲームをしているような世代だけでなく、親子連れやご年配の方まで、幅広い世代のユーザーがグループを作って楽しんでいるようでした。決してポケモンGOの宣伝をするつもりはありませんが、一つのツールでこれだけ多岐に渡る人たちが繋がれるというのも不思議な現象だなあと感慨深く感じます。ちなみに、世界的に配信されているアプリなので、頑張れば海外の方ともフレンドになれます。

だいぶ偏った話になってしまいましたが、皆さんも健康のため、新しい出会いのため、スマホを片手に外へ出かけてみてはいかがでしょうか。ただし！！歩きスマホは危険なので、画面を見る際は周囲への注意を忘れず、立ち止まってからにしましょう！

今回は、西部家畜保健衛生所の弘中健人先生にバトンをお渡しします。

楽しいお話、よろしくお願いします。



## 決済方法あれこれ

熊毛支部 菅原 淳也

(菅原獣医科医院)

ここ10年ほどで、スマホや高速ネット回線網の恩恵を受けて、クレジットカード決済が昔ながらのでっかい専用端末を使用しなくても比較的簡単に導入できるようになりました。今思えばなぜだかよく分かりませんが、コロナ禍でキャッシュレス決済導入が加速したこともあり、さらに普及が加速したようです。とあるアンケートによると、ここ数年、現金・クレジットカードに続いて「QRコード決済」がかなり追いついてきているそうです。PayPayなどは一時期決済手数料無料だったこともあり、QR決済自体の普及にかなり影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

当院でも以前からクレジットカードQR／タッチ系決済を導入していたところですが、新たにQRコード決済を追加導入して約6ヶ月が経過しまして、利用状況を集計してみましたので少しご紹介してみようと思います。

まず、金額ベースで、売上全体に対する現金決済の割合は「63%」でした。ここ数年次々に非現金決済の手段が増加しているため、現金の割合は減少し続けています。

そしてQRコード決済ですが、全てのブランドを合算して「6%」でした。個人的には思ったより少ない、という印象です。どういうわけか導入後徐々に増加する様子もありません。

QR決済各ブランドの利用割合はどうでしょうか？当院では「PayPay」、「楽天ペイ」、「d払い」の3種が利用されています。「PayPay」と「d払い」がどちらも約44%でほぼ同率、「楽天ペイ」が残りの約10%を占めるという結果でした。絶対王

者PayPayが強いのは当然として、d払いの健闘に驚きました。チラッと受付を横目で見ると、d払いは60代以降の年齢層の方で利用件数が多い気がします。docomoのスマホを持っていらっしゃる方、相当年配の飼い主さんでも「お、デー払い使えるんじゃない」と仰って決済される方複数いらっしゃいます。

現在当院では、現金、クレジットカード、タッチ決済（QUICPay、iD、交通系ICカード）、QRコード決済が利用可能ですが、決済手続きの操作はQRコードが最も簡便です。クレジットカードやタッチ系は専用の決済端末が必要ですが、QRの場合それらが不要で、会計アプリを使用しているタブレット端末などのカメラ機能を利用して、顧客が提示するQRコードを読み取るだけです。どのブランドを使用するかを指定する必要もありません。読み取ると同時に決済が完了し、数秒以内に利用明細が印刷されます。

財布から現金を出す、数える、支払う、受け取る、確認する、おつりを数える、受け取る、財布にしまう、小銭を落としたりして拾う、などの「手間」が省けるのは当然なのですが、こういった一連の決済に要する時間や意識が圧縮されることで、飼い主さんとのコミュニケーションにおける「帰り際のちょっとした一言」みたいなものをうまく伝えやすかったりするメリットは計り知れないものがあると思います。

災害時に使用不能となるデメリットや手数料については皆様十分にご承知の通りだと思いますので、今回はあえて言及しませんでした。少しでも皆様の参考になれば幸いです。

## 九実研及び実技協九州支部の合同山口大会に出席して

山口支部 中間 實 徳  
(山口大学名誉教授・東亜大学名誉教授)

去る11月3日(金)と4日(土)に、新山口駅北口のKDDI 維新ホールで、標記の研究会が、村田智昭・大会長(山口大学生命科学実験施設長)の下で開催された。本会は第41回九州実験動物研究会総会・第43回日本実験動物技術者協会九州支部研究会発表会の合同山口大会という形であった。開催に際して、村田智昭・大会長、越本知大・九州実験動物研究会会長、中村直子・日本実験動物技術者協会九州支部長の挨拶があった。

一般演題11題、特別講演7題とポスター発表5題があった。特別講演の演題と内容等を以下に簡単に説明する。

### 1) プリオン病研究におけるヒトプリオン蛋白ノックインマウスの有用性：小林篤史(長崎大学生命医科学域バイオメディカルモデル動物学分野)

演者は昨年度に現職に着任した。プリオン病は、プリオン蛋白がミスフォールドして感染性を獲得し、新たな正常型プリオン蛋白を次々にミスフォールドさせながら脳内に蓄積することで起きる神経変性疾患である。演者らは日本で発生の多い硬膜移植関連プリオン病の原因となったプリオン株を同定することに成功した。本講演では、プリオン病研究におけるヒトプリオン蛋白ノックインマウスの有用性を説明した。

### 2) 動物実験を支える環境基盤：高橋英機(九州大学大学院医学研究院基礎医学部門実験動物学分野)

演者はこの5月に現職に着任したが、前職の理化学研究所脳科学総合研究センターで整備したスイート式動物実験施設の紹介と環境エンリッチメントへの取り組みについて紹介した。動物実験施設の管理運営のためには、実験動物医学を基盤にした適切な飼養保管体制とその支援体制を整えることが不可欠である。一方で施設利用者である研究者が望む動物実験がしやすい環境は、施設管理者が望む適正な動物実験が実施できるはずの環境とは一致しないことが多い。この問題の解決法の一つがスイート式動物実験施設である。スイート式動物実験施設は、通路に沿って飼育室や実験施設がずらっと並ぶ様式ではなく、大部屋(スイート)の中に複数の飼育室や実験室を配置した様式である。そのため、スイートごと

に独立した空調施設を持ちガス滅菌が可能であるため、施設内全体への実験動物感染症の蔓延防止や清浄化を行うのに有効な構造になっている。また、十分な飼育スペースの確保や飼育ケージ内の遊具等の配置をした空間エンリッチメントや餌の与え方などに着目した採食エンリッチメント等を紹介した。

### 3) 家兎一過性脊髄虚血モデルとその研究成果：山下敦生、松本美志也(山口大学大学院医学系研究科麻酔・蘇生学講座)

麻酔科医が直面する胸腹部大動脈瘤手術の合併症である脊髄虚血は発生率が約10%と高率で、手術操作の大動脈遮断に起因するため、保護介入が可能と考えられ様々な研究が半世紀にわたり行われてきたが、いまだに広く認められた保護法はない。演者らはウサギの腰髄膨大部が人間と比較して尾側に存在するため、腎動脈下大動脈遮断により腰髄膨大部が虚血に至り、後肢の対麻痺をきたす。演者らはクリップで大動脈を15分間遮断し、その後遮断を解除して再灌流させる。この一過性脊髄虚血モデルでは、麻酔覚醒から約24時間は特に神経障害なく跳躍できるが、虚血再灌流障害が進行し、徐々に後肢の麻痺が生じる遅発性対麻痺をきたすことがある。このモデルを用いて脊髄虚血保護が得られる可能性のある薬剤の投与や手技の研究を紹介した。

### 4) 実験動物技術者の課題とこれからの取組みについて：中野洋子(一般社団法人・日本実験動物技術者協会)

この協会は、人の健康や福祉につながる科学研究のために避けることのできない動物実験を、洗練された実験技術や適正な実験動物飼育管理などを通じて支える、実験動物技術者を主とする全国に7支部を持つ団体である。昨今、動物実験を取り巻く社会環境は、国内外に対する福祉的配慮の動向に大きく影響を受けている。2012年の動物愛護法の改正では、5つの自由の確保が盛り込まれ、人と動物の共生を考える社会の実現に向け、実験動物の飼育管理等においても福祉的配慮を具体的に求める内容が示された。当協会の会員の多くは、職場において実験動物の飼育管理や実験補助業務等に従事し、実験動物に最も近いところから、専門性を生かした福祉的配慮

を行える立場にある。ここ20年間で実験動物技術者等の雇用形態が大きく変化し、大学等での正規技術職員の削減や企業における業務の効率化の一環として、飼育管理業務の業務委託化や派遣社員・パートでの起用などが進んでいる。この雇用形態の変化は、実験動物技術者等の知識および技術習得の場の確保にも変化をきたし、求められる専門性の向上や維持、次世代への技術の伝承を困難にする状況を生んでいる。同協会は毎年開催する全国大会では、職場における飼育環境の改善や実験動物福祉に関する発展的な技術開発等や実験動物福祉奨励賞表彰の実施、Well-beingひろばを設置し、関係者が動物福祉の実践効果を話したり、職場での課題を考えたりする場の提供も行っている。

#### 5) 山口発！ 1本約100万円・長期熟成型ヴィンテージ日本酒「夢雀」(MUJAKU)の誕生秘話と取り組み：松浦奈津子(株式会社Archis)

この特別講演は他とは趣の違うテーマであったが、山口の酒を世界に広めたいというスポンサーの地域おこしの狙いがあると思われた。松浦社長は山口市徳佐の古民家を改修して地域の酒米づくりに婦人部を結成する一方、岩国市の歴史ある酒蔵「堀江酒場」の他とは違う”長期熟成型“の酒づくりに着目して、長期熟成型の高級ヴィンテージ日本酒を企画・開発し、「夢雀」と名付けて、750 mlのボトルの7年物を97万6千円で売り出して好評を得ているとのことであった。ドバイや香港など海外へ販売拡大してきた。今後、日本酒全体の世界的な地位向上のために夢雀のグローバル化による地方から世界展開への取組みに挑戦していくとのことであった。この若い女性社長のバイタリティには敬服した思いであった。

#### 6) 音声コミュニケーションから見るマウスの情動状態—歴史と展望：菅野康太(鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース)

マウスやラットなどの実験動物を含む多くの齧歯類の音声コミュニケーションは超音波発声(ultrasonic vocalizations: USVs)でなされている。その発見は1950年代に遡る。本発表では、このような歴史的背景を説明しつつ、マウスの音声コミュニケーションに関する論点を整理し、その種類と生物学的意義・機能を解説した。仔マウス若しくは仔ラットのpupUSVsは心理的生理的不快の表出と考えられており、いわゆるストレスコールと言える。マウスの求愛発声は、性ホルモンにより促進される雄特異的行

動であり、性的動機づけの表出と考えられる。演者らは最近、USVsの解析技術の開発と公表を行っており、その技術とそれにより分かった新たな知見を紹介した。これらを通じて、齧歯類を観察する際に音声コミュニケーションを見ることの有用性と可能性を伝えることにする。

#### 7) 「実験動物取扱実態調査」の実施について：立田理一郎、山下瑠美(環境省自然環境局総務課動物愛護管理室)

動物愛護管理法は、制定当初から動物を科学上の利用に供する場合の方法についての規定があり、その後の改正において「3Rsの原則」や「5つの自由」の観点も加えられた。動物愛護管理法では、以下の5つで実験動物に関連する規定がみられる。①基本原則：動物が命あるものであることにかんがみ、みだりに殺し、傷つけ、又は苦しめることのないようにすること。習性を考慮して適正に取り扱うこと。など ②所有者等の責務：動物が人の生命、身体、財産に害を加え、生活環境の保全上の支障を生じさせ、人に迷惑を及ぼさないように努めること、等 ③殺処分の方法：動物を殺さなければならない場合、できる限り苦痛を与えない方法によってすること。④3Rsの原則：代替法の活用(Replacement)、使用数の減少(Reduction)、苦痛の軽減(Refinement)を行うこと。⑤虐待・罰則：みだりな殺傷や遺棄を行ってはならない。

そして「実験動物取扱実態調査」の実施をこの秋に実施する。また、本調査は、WEBアンケートにより実施する。本調査結果を集計・分析の上、令和5年度中に有識者等による評価委員会を開催し、本調査結果の評価、取りまとめ及び公表方針を検討し決定する予定との事である。

また、一般講演では12題が発表され、マウスやラットでの繁殖関係の研究や感染動物実験施設における経費削減の取組み等、多岐にわたる研究が発表された。ポスター発表・討論では5題が報告された。その他、第13回若手交流委員会勉強会が2日目の午後に開催され、2つの演題があった。

私はこの研究会には初めて参加したが、実験動物に関連した種々の話題に改めて関心を抱くことができた。村田智昭・大会長には原稿のチェックもお願いした。関係の皆さんに感謝と御礼を申し上げる次第である。



# 獣医療に関する広告の制限及びその適正化のための監視指導に関する指針（獣医療広告ガイドライン）の全部改正について

山口県農林水産部畜産振興課

獣医療広告については、飼育者等を誇大な広告等から保護するために規制を行っています。近年、獣医師の専門化が急速に進み、愛玩動物看護師制度の開始、情報発信媒体の変化など獣医療を取り巻く状況が大きく変化しているところです。

このため、飼育者等が提供される獣医療サービスを正しく理解し、適切に選択できるように令和4年度から5年度にかけて獣医療広告制限の見直しが行われました。なお、新たな獣医療広告制限は令和6年4月1日からとなります。

## ○広告制限の見直しの概要

- ・ 獣医療広告への基本的な考え方は引き続き堅持しつつも、広告を行う獣医師への正確かつ適切な情報提供の努力義務を課した上で、客観性や正確性を確保し得る場合には、獣医師の専門性や獣医療サービスなどを広告可能事項として省令で認めることとする。
- ・ 診療施設等ウェブサイト情報発信については、原則として広告制限の対象とはしないが、獣医療の安全対策の一環として、ガイドラインで一定の管理を行うこととする。

これまで		これから
		<b>追加 正確かつ適切な情報提供の努力義務</b>
獣医師に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門科名、学位又は称号</li> <li>○ 診療機器、大臣指定診療施設</li> <li>○ 家畜防疫員、農業共済獣医師、衛指協指定獣医師</li> <li>× 獣医師の専門性、履歴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門科名、学位又は称号</li> <li>○ 診療機器、大臣指定診療施設</li> <li>○ 家畜防疫員、農業共済獣医師、自衛防疫指定獣医師</li> <li>○ 獣医師の役職履歴、専門性（大臣指定団体による）</li> </ul>
診療内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家畜体内の受精卵の採取、犬猫の避妊去勢手術、ワクチン接種、フィラリア症の予防、健康診断</li> <li>× 高度な診療行為、ノミ・ダニ駆除、マイクロチップ装着</li> <li>× 費用広告、誇大広告、比較広告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 診療行為全般（愛玩動物看護師がいることも可）</li> <li>× 通常必要となる診療内容や費用の情報、診療のリスクや副作用に関する解説、問合せ先の併記がない診療広告</li> <li>× 誇大広告、比較広告</li> </ul>
WEB情報	バナー広告等を除き、広告制限の対象外との基本的考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>追加</b> 広告制限の対象となりうるとの基本的考え方</li> <li><b>追加</b> 獣医療安全対策としてウェブサイトでの情報提供についてガイドラインで一定の管理</li> </ul>

詳細はこちら <https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/zyui/koukoku.html>（国HP）

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/zyui/attach/pdf/koukoku-2.pdf>（国作成資料）

※改正後の獣医療に関する広告の制限及びその適正化のための監視指導に関する指針（獣医療広告ガイドライン）は本会ホームページに掲載しています。（事務局）

## お知らせ

## 講習会動画のホームページ掲載

令和5年11月19日(日)、山口グランドホテルで開催した「令和5年度中国地区獣医公衆衛生講習会（公開講座）」の動画とテキストを本会ホームページ（会員専用コーナー）に掲載しました。

会員の皆様の業務の参考にしてください。

## お知らせ

## 今後の主な行事(予定)

- 12月1～3日 ・第41回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（神戸市）
- 12月7日 ・第2回小動物部会委員会（県獣会館）
- 12月21日 ・第7回県獣医師会館検討会議（県獣会館）
- 1月11日 ・総務委員会（県獣会館）
- 1月14日 ・第1回小動物講習会（防長苑）
- 1月25日 ・第4回理事会（県獣会館）
- 2月15日 ・第2回支部長会議（県獣会館）
- 2月25日 ・第2回小動物講習会（県獣会館）
- 3月14日 ・第5回理事会（県獣会館）

## 事務局だより

- 11月2日 ・第3回理事会（県獣会館）
- 11月5日 ・中国地区小動物講習会（広島市）
- 11月9日 ・山口県和牛共進会（山口中央家畜市場）
- 11月10日 ・山口県ホルスタイン共進会（山口中央家畜市場）
- 11月16日 ・第6回県獣医師会館検討会議（県獣会館）
- 11月19日 ・中国地区獣医公衆衛生講習会（山口グランドホテル）
- 11月20日 ・会計事務所協議（塩見会計事務所）
- 11月21日 ・会報編集委員会（県獣会館）
- 11月22日 ・日本獣医師会会長会議（東京）
- 11月23日 ・2023年動物感謝デー（東京）
- 11月29日 ・自由民主党山口県支部連合会協議（自由民主党山口県支部連合会）
- 2日 16日 事業推進会議

次回編集委員会 12月19日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第751号 令和5年12月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷